

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

# 住民協ひろば

第41号（準備会から通算第62号）

発行日 令和2年9月5日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

## ・・・「家庭菜園愛好者交流頒布会」について・・・

先月7月18日（土）に続き、8月22日（土）に久木会館前のオープンスペースにて家庭菜園野菜の交流頒布会が行われた。朝の9時から家庭菜園生産者がトマト、キュウリ、ナス、ゴーヤ、ゴボウ、空芯菜等の夏野菜を持ち寄り交流頒布会が行われ、1時間も掛からないうちに商品が完売した。今回は野菜に加え手作りのシフォンケーキ、更に山の根で養蜂を始めた生産者からハチミツも陳列テーブルに並んだ。内輪のクチコミベースで開始したものだが、地域には様々な趣味や才能を秘めた人が多いと改めて感心する次第である。

また、今回はコロナウイルス感染回避のため2月から休止している「みんなの食堂」のトライアルとして、当日会館で集会のあった部会のメンバー及び関係者にてカレー食事会が行われ、久木小学校の校長も参加され屋外での食事会を満喫し、用意した50食が捌けた由にて、外での食事会はコロナ下の「みんなの食堂」の一つの対応となることを証明した。

次回の野菜交流頒布会は夏野菜の端境期となることもあり10月～11月頃の実施予定となる模様である、当面コロナ感染が容易に終息の目途が立ちそうもなく、今期会館内で計画していた「会館まつり」も会館内での実施も難しいものと思われることから、野菜交流頒布会から、「久木朝市」のような広がりをもった新たなイベントとなることを期待している、

関係者の拠点部会および子ども食堂関係者に改めて謝意を表したい。

事務局長 石井 達郎

## 令和2年8月度役員会

令和2年8月1日（土）・13:30～15:00、久木会館で16名（うち役員12名）が参加して開催さ

れました。主な議題は以下の通りです。

### (1)事務局からの連絡

#### ① 7月31日住民自治連絡会報告

主たる話題はコロナウイルス下・自粛期間中及び自粛期間明けの各住民協の活動状況についての情報交換、各住民協とも種々問題点が出されたが、既存の地縁団体と住民協とのコミュニ

ケーション不足に起因する様な事例が散見されたとの報告があった。空き家対策について、市より空き家バンクの現状について市より説明があったが、借り手の需要があるが、貸し手情報が殆どないとの事であった。

② 7月1日第1回「都市機能の整った快適なまち推進プラン策定」懇話会報告

首題の懇話会が、都市整備課が主管となり、メンバーとして行政+自薦の市民2名+各住民協の代表が参加して開催された、あと2回開催され、3月末までに取り纏め予定との報告あり。議論のテーマは下記

- ・東逗子駅前の再開発

(2)審議事項

① 各部長及び事業代表から現況報告及び全体への協力要請事項

- ・新拠点部会：7月18日に実施した家庭菜園で収穫された野菜の販売会について、当日は大雨で来場者、出店者とも懸念されたが、予想以上に健闘、手応えを感じるものとなった。上記をうけて、次回開催は8月22日(土)開催、野菜販売の他、ケーキ、コーヒーを販売するとの事。また、当日は「みんなの食堂」の休止中の調理スタッフの士気を保つ意味を含めて、カレーを作り、販売スタッフ、関係者等に300円で販売するとの由。
- ・ふれあい部会：7月31日開催された「子供と雑巾作り」について報告があった。参加者は、児童(男子4名、女子1名)、部会員4名、今回は縫い上がった雑巾に毛糸で刺繍を施す作業としたが、持ち帰った児童の父兄からメールがあり、好評を得たとの報告があった。
- ・減災部会：最終的には久小区地区防災計画を纏めて行くつもりで、それを軸として各自主防災組織の活動内容の明確化、統一化をして行きたいとの指針が説明された。また久小が地域防災拠点になるが、拠点として役割、避難所の在り方などについて不明な点が多いので8月13日に部会代表者が市と意見交換する予定である旨報告され

- ・桜山市営住宅のバリアフリー化
- ・公共施設のメンテナンスと統廃合
- ・下水道施設の老朽化対策 他

③ 仲西恒雄監査逝去の件

住民協の監査役、また地域自治活動のご尽力頂いた仲西恒雄監査役のご逝去が報告され、出席者全員でご冥福をお祈りした。

た。

更に「地域防災計画の改正」について市・防災安全課主催で懇話会が8月3日と21日の開催される予定であり、部会長が出席する由。

- ・久木会館：通達では9月1日より、施設利用者定員を従来の定員に戻すとしているが市民協働課に確認したところ、運用は各地域活動センターの判断に任せるとのことであるので、久木会館としては現状の定員の50%で運用を継続する旨提案され、役員会で承認された。

また、ルームCのエアコンが故障し、盛夏に向けて、熱中症対策からもエアコンを装備する必要があった件は、会館の会計から拋出し、小型のエアコンを装備した旨報告された。

② 2020年度「住民協ひろば特集号」について、下記が確認された。

- ・特集テーマは「防災・減災」とする。
- ・編纂スケジュールは、テーマの纏まりを考えて、昨年より1ヶ月遅らせて11月末の市広報と同時に月末同時配布とする。
- ・編集・取り纏めは、今まで担当していた東さんが多忙のため、井上さんに依頼することとするが編集作業に詳しいサポーターをつける。
- ・ページ構成などは、昨年度と同様とする。

「私の手作り」頒布・交流会8・22に参加して

藤江とし子(山の根在住)

結婚して千葉県の松戸に半年、柏の社宅に2年そして茨城県の牛久に24年住んで、20年前に逗子の山の根に戻ってきました。

徐々に東京から遠ざかっていく寂しさには やりきれないものがありました。

常磐線の車窓から見る景色は 利根川を渡り茨城に入ると、田んぼと畑ばかり。牛久の一つ手前の藤代という駅にいつも長く止まるのですが(特急を通すために)、夏などドアが開いていて虫がたくさん入って来たりしました。それでも「住めば都」自宅のすぐ近くの農家の方と親しくなり、胡瓜、トマト、茄子、枝豆など 畑から直接取らせてもらいました。子供にとっても良い遊び場だった、と思います。

又、留守中に玄関先に竹の子が5~6本置いてあったり[植木屋さんが置いていったのですが]、苗を抜く前のイチゴをタダで取らせてもらったり、キズ有りの梨を段ボール箱いっぱいもらったり、と野菜、果物には不自由しませんでした。



久木中学から大池の間も昔は田んぼが広がっていました。父や兄とザリガニを取りに行ったものです。大池にはカッパがいると言われ、恐ろしくて近寄れませんでした。今はそんな面影は全く無くなり、きれいな家が建ち並んでいます。

野菜販売にいらした、売る方も買う方も、この近くにお住まいなのでしょう。若い方が多く、活気がありました。珍しい野菜や美味しい調理方法など、色々お話しも出来て、少しはコロナを忘れられる一時でした。

今回販売しましたゴーヤは逗子小学校近くに住んでいる、私の兄が作ったものです。毎年種を取り、土作りをし、二階まで蔓を這わせるネットを貼り、手を掛けて作っています。機会がありましたら、又ご一緒させてください。

## トピックス

### 8月15日前夜:

8月15日は戦争が終わった日、75回目の8月15日を迎え、当時小学6年生だった私の記憶も年ごとに薄れてゆき、今残る記憶は僅か、その中でひらひらと火がついて舞い落ちてくる焼夷弾と、腹に響くどすーんという唸るような炸裂音が、空襲と艦砲射撃の記憶として目と耳に残っています。

記録を辿ると7月17日の深夜から翌朝までの数時間、どーんぐぐぐという地響きのような爆発音が続きました。隣接する工業都市が、戦艦群からの艦砲射撃を受けたのです。その規模は40センチ径の砲弾・870発。

8月1日夜は何か起こる予感のする不安な夜でした。空襲が、ピラで予告されていたからです。果たして深夜、勿論当日は空襲警報が発令され眠れぬ夜となっはいたのですが、近くで焼夷弾による火災が発生したのがきっかけで、避難を始めました。先ずは一家（母親と兄弟2人の3人）、隣家の親子2人の5人が一緒に前の道路に掘ってあった防空壕へ駆け込む。ここは直ぐに飛び出し火の気のない北の方角に向かって駆け出しました。途中で隣家の二人とは別れ別れになり、一家3人がたどり着いたところは、高台を下った川の近くのネギ畑の中、そこには多数の人が避難していました。皆、座り込んで呆然と或は恍惚と、空からひらひらと舞い降りてくる火のついた焼夷弾を眺めていたのです。

B29・170機によるこの空襲の死者は300人、殆ど全市を焼き尽くしました。当時の人口は5万人程度でしたから、500万人の都市に直せば3万人の死者、相当の被害でした。

2日早朝、家にたどり着くと、道向こうは一面の灰燼、道一つ隔てて我が家の一角数軒は奇跡的に焼け残っていました。幸いにして極近くに落ちた焼夷弾が不発だったこと、そして郊外の兵営にいた親戚筋の兵隊さんがいち早く駆けつけて、防火用水で燃え始めた板塀の火を消してくれたのです。

焼け残った隣の大きな家は、しばらくの間焼け出された近所の数家族の避難生活の場となりました。

やがて迎えた8月15日、暑い日でした。それから始まる戦後の記憶は、「飢え」と「松下村塾を思わせる個人宅での授業」です。

鈴木為之(山の根在住)

### 編集後記

立秋から3週間経つのに、30度を超える日が続く、9月に入っても暫くはこの暑さが続きそうだ。熱中症を意識し、更にコロナ対応を意識せざるを得ない。

こんな時だからこそ、人との暖かい交流がより大切に思えてくる。暫く合っていない旧友に手紙でも書いてみようか……。

事務局長 石井達郎